



# 高齢者らの支援は

## 鶴岡 医療と介護の連携探る

鶴岡市の「医療と介護の連携研修会」が29日、同市の出羽庄内国際村で開かれ、看護師やケアマネージャーらが現場での事例報告などを通じ、連携の必要性について考えた。

研修会は、介護が必要とされる高齢者らが安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができる支援体制を構築するため、

「鶴岡協立病院の石向美香さん(看護師)、湯田川温泉リハビリテーション病院の佐藤恵美さん(看護師)の4人が発表。生活に関する情報・介護状況を把握しているケアマネージャーからの情報提供により、退院支援を進めやすい」「がんと末期患者の方は、最初から要介護2にしてもらえるとスムーズに緩和ケアにつながる」と述べた。

「生活に関する情報・介護状況を把握しているケアマネージャーからの情報提供により、退院支援を進めやすい」「がんと末期患者の方は、最初から要介護2にしてもらえるとスムーズに緩和ケアにつながる」と述べた。

# 「命」の講演会

### 8月22日・鶴岡 親子対象に開催

河北町出身で聖路加国際病院副院長の細谷亮太さんを招く講演会「生きているってステキ！」が8月22日、東京第一ホテル鶴岡で開かれる。鶴岡市の慶應義塾大先端生命科学研究所「からだ館」が市民向けの勉強会として開く。小学4～6年生とその保護者が対象で、参加者を募集している。

がん情報ステーションが、地域の医療機関、行政、大学が連携・協働して地域住民にがん情報を提供する新しい地域協働プロジェクトとして2007年11月、東北公益文科大学大学院や先端研がある鶴岡タウンキャンパスの致道ライブラリー内に開設された。各種がんの

診療ガイドラインや解説書、闘病記など約1200冊の書籍のほか、30を超える全国の患者会の会報や冊子などをそろえ自由閲覧できる。さらに、訪れた住民ががんについての正しい知識を得られるように情報探しを手助けする相談業務を行っている。同じ悩みを持つ人たちの出会いの場「ここに倶楽部」も開設している。

今回の講演会は、子供たちに生きていることの素晴らしさや命について考えてもらおうと企画した。講師の細谷さんは1948年生まれ。東北大医学部卒業後、東京・築地の聖路加国際病院小児科勤務。米国・テキサス大総合がん研究所・MDアンダーソン病院小児科を経て、現職。命をテーマにした絵本の出版にも携わり、代表作(ストーリー原作)に『おにいちゃんがいってよかった』『ぼくのいのち』(岩崎書店)などがある。

当日は、細谷さんが命について講演した後、講演内容を踏まえて子供たちがグループに分かれてワークショップ。生きていることを実感するため心臓の鼓動を聞いたり、意見交換する。細谷さんが手掛けた絵本の紹介コーナーも設ける。

開演は午後1時半(開場同1時)。定員は先着50組。事前申し込みが必要で定員になり次第締め切る。申し込みは電話かファクスで同ステーション(電話0235(29)0806、ファクス同(29)0807)へ。

# 少年非行防止に一丸

## 酒田二中学区 推進協議会 「かがやきネット」発足

酒田市の酒田二中学区が本年度から2カ年、県警察本部、県教育委員会などによる「少年非行防止ネットワーク事業」のモデル学区の指定を受けた。同市の若浜コミュニティ防災センターで27日、同事業の推進協議会「かがやきネット」の発足式が行われた。

児童・生徒の規範意識

上山、新庄、南陽の3市、中山町の計4中学区とともに指定を受けた。発足式には関係者約50人が出席。酒田署の小林邦憲署長が「青少年健全育成のため実効のある活動を展開してほしい」とあいさつし、「かがやきネット」会長に就任した北村宏治さん(若浜学区)が推進委員に委嘱状を交付した。

その後、規約を協議。活動方針として▽既成組織の活動を生かし、連携を強化することでネットワーク事業を推進▽活動を地域に広めるためインターネットの有効活用▽非行防止の本質や意義に照らした有効な活動の実践の3つを承認した。具

自治会連絡協議会(会長)に推進委員の委嘱状を手渡した。

その後、規約を協議。活動方針として▽既成組織の活動を生かし、連携を強化することでネットワーク事業を推進▽活動を地域に広めるためインターネットの有効活用▽非行防止の本質や意義に照らした有効な活動の実践の3つを承認した。具

# 純利益9億2900万円

## 山形銀行 第1・四半期の決算発表

00万円増の9億9100万円だった。本業の増収を示すコア業務純益は前年同期比3億9000万円増の1兆1767億0000万円増。不良債権比率は2.78%と3月末比で0.08ポイント悪化した。